

■ グループ紹介

大林組技術研究所は昭和32年6月大坂本店に研究部を設置したのに始る。昭和26年3月研究室と改称。昭和32年3月東京支店内に研究室東京分室を設置。昭和40年12月本店研究室ならびに研究室東京分室を廃止し、東京都清瀬に技術研究所を設置、大阪に支所を置

き今日に至る。

所長 中川恭次

研究員 120名（内空調衛生研究室13名）

所在地；〒204 東京都清瀬市下清戸 4-640

（文責；田中辰明）

(株) 竹中工務店 省エネルギー建物推進プロジェクトチーム

〔はじめに〕

当プロジェクトチームは「省エネルギー化建物開発プロジェクトチーム」として、「省エネルギーは、これからの日本に不可避な課題であり、当社においても技術の確立を図る必要がある。」との社長指示によって、それ以前の建物の省エネルギーについては、主に設備機器を対象に研究所、設計部等部署レベルで開発研究を行うと共に一部の建物にその技術を導入していた。然しながら、それは断片的なハードウェア技術の導入に限られた設計者の個人的意志による傾向に鑑み、本開発に当っては建物が消費するエネルギーを最少に抑えながら快適性の向上を計り、さらに建設費の経済性をも考慮した当該プロジェクトの特性に最適な省エネルギーに関して全社的に各人が同一レベルで省エネルギー設計が行えるシステムの確立を目標に昭和50年4月に全社的に総力を挙げて発足、本年度で第7次開発に至っている。

〔組織と経緯〕

社長直属の全社的项目チームであり、その概要は表1のごとくであるが各年度、テーマ毎に研究所、情報センター、全店設計部の各種専門技術者により各グループは構成され、各々所属各部門の支援を受けながら活動を行う。また、各グループを総合するリーダーとして省エネルギー本部長、これらを分担常務がプロジェクトリーダーとして統括する形態をとり、事務局は生産本部が担当して全社組織を運営している。

チームは、「開発・研究グループ」、「実施グループ」に大別される。各グループの役割を略記すると、「開発・

研究グループ」は、建築の省エネルギーに関連する計画技術の開発研究を行うグループ（以下、Gと略す）であり、次の7Gに分れる。

- ① 調査・研究G、建築の省エネルギーに関するフィージビリティスタディ担当。
- ② 設計システム・データーG、省エネルギー計画技術のシステム化、計画関連技術の体系化とデーターの集大成及び標準化担当。
- ③ 機器・システム開発G、建物の機能維持に関する運転・管理設備の省エネルギー機器・システム開発。
- ④ 電算プログラム開発G、非定常建物熱負荷等各種シュミレーションプログラム開発。
- ⑤ 太陽熱利用検討G、アクティブソーラーシステムの建築への適用に関する一連の技術展開を行う。
- ⑥ 太陽熱利用省エネルギー集合住宅開発G、昭和49年末のサンシャイン計画の実績導入、発展による集合住宅の商品開発。
- ⑦ 新エネルギー利用技術開発G、太陽熱（アクティブ・パッシブを含む）、地熱・風力等の自然エネルギーの建築への適用化利用技術の開発。

以上の7Gが開発経過に伴って編成されたが、本年度は①調査・研究Gは各担当分野毎に分離、省エネルギー本部で総合。また、⑤太陽熱利用検討Gは⑦新エネルギー利用技術開発Gに包含して進めている。

「実施G」、全本支店設計部に設置し、「開発・研究G」による開発成果を現業プロジェクトに導入、水平展開を行うと共に、竣工導入プロジェクトを計測・解析して計画性能の実証評価を行い、その結果を「設計システム・データーG」にフィードバックする。

■ グループ紹介

表1 省エネルギー建物推進プロジェクトチーム関連組織表

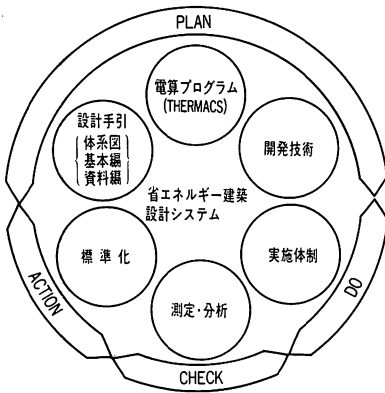
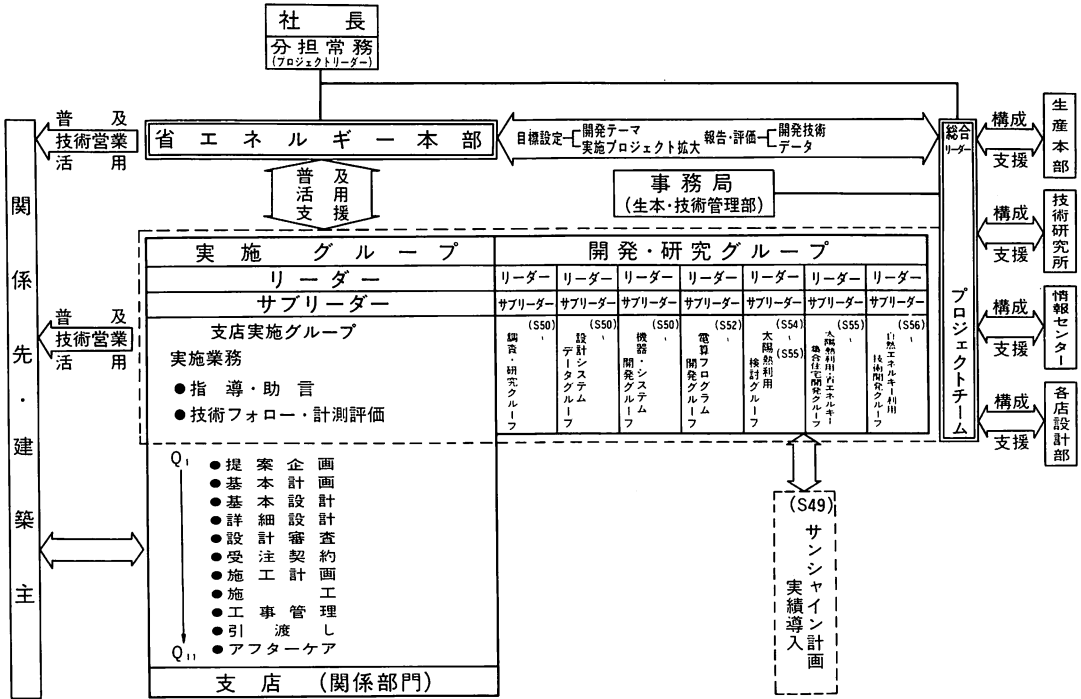


図-1

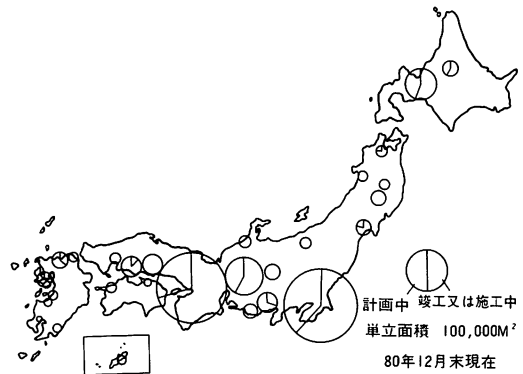


図-2 実施プロジェクト現況建築地と延床面積

〔おわりに〕

現在、実施中のシステムの概要を図-1に、システム適用状況を図-2に記しますが、これらの実施プロジェクトによる省エネルギー効果は予測を含め、電力換算8,259万kWh/年、因みに、この数字は東京都の全家庭

の1日半の消費エネルギー量に相当します。

以上

所在地；〒104 東京都中央区銀座 8-21-1
(文責；大井昭夫)